

「ことばのセンスを磨こう」

しりとりや早口言葉などのことば遊びは、ルールもシンプルでいつでもどこでも始められる楽しい遊びです。

言葉遊びの魅力はそれだけではなく、シンプルの中に子ども達の発達を促す要素がたくさん詰められたゲームなのです。

語彙力や表現力が身に付けられる事は、以前の「なぞなぞ遊び効果」でもご紹介させて頂きました。

「なぞなぞ遊び」も言葉遊びの一つですが、今回は遊びを通して言葉のセンスを磨いたり、滑舌練習にもなる「声に出すことば遊び」をお伝えします。

まず、昔から楽しまれてきた「早口ことば」は、言いにくい言葉を言い合って楽しむ遊びですが、子どもに限らず、大人でも舌がもつれて中々言えませんよね。

早口言葉には古典的のものがたくさんあって、「隣の客は、よく柿食う客だ」「生麦・生米・生卵」など、ご存知の方も多いと思います。

続けて3回言えるか競ったり、どれだけ早く言えるかタイムを計ってみたり、親子で楽しみながら滑舌や発音練習も出来ます。

また、長音・拗音などを組み合わせると発音しにくい言葉になります。

「ぴゃぴゅぴょ」などは、「かえるぴよこぴよこ」のような早口言葉になっていますよね。

音の組み合わせから、オリジナルの早口言葉をつくってみるのもおもしろいですよ。

おもしろいのは、1から10までの「かぞえ歌」。小さい頃にやった覚えはありませんか？

「いち、にい、サンマのしっぽ、ゴリラのむすこ、なっば、はっば、くさった豆腐」と数を数える時に調子をつけて言うのですが、これも語呂合わせ遊びのひとつです。

地方や時代によって少し言葉が違ってても長く親しみのある言葉あそびです。

「かぞえ歌」も野菜や生き物で作ると、様々な言葉を考え、組み合わせたり、リズムに乗せたりと一つひとつが楽しい遊びになります。

お家で子ども達と一緒に遊ぶ機会が多くなるこの時期、一緒にオリジナルことば遊びを楽しんでみませんか？